

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2019年11月分)

2019年12月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[大統領評議会、新閣僚評議会議長候補を指名\(19日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[サラエボとトウズラの両カントン、移民・難民施設の新規開設を認めず\(14日\)](#)

イ. スルプスカ共和国(RS)

●[RS国民議会、RSの権利などに関する20項目の決議を採択\(11日\)](#)

●[ドディック大統領評議会メンバー、RS刑法改正の方針を発言\(19日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[インツコ上級代表による第56回国連安保理報告\(5日\)](#)

●[EU加盟プロセスに対するBH国内の支持率は49%\(世論調査\)\(27日\)](#)

(2) 二国間関係

●[BH要人、BHは「時限爆弾」であると発言したマクロン仏大統領を批判\(8日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[坂本大使とジャフェロビッチ大統領評議会メンバーの会談\(7日\)](#)

●[パニャ・ルカ市診療所への救急車両の引渡し\(20日\)](#)

●[サラエボ大学獣医学部からの感謝状\(21日\)](#)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●[トウズラ火力発電所7号炉建設に向けた工事が開始\(2日\)](#)

●[今年第3四半期までのBH貿易収支、前年同時期から悪化\(13日\)](#)

(2) 民間セクター

●[10月の国内工業生産高、前年同月比10.4%のマイナス\(30日\)](#)

(注: 以下は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●大統領評議会、新閣僚評議会議長候補を指名(19日)

大統領評議会は臨時会合を開催し、テゲルティヤ新閣僚評議会議長(首相)候補(セルビア系、SNSD所属)を指名。今後、BH議会下院による承認を得た後、テゲルティヤ新議長候補は新閣僚の指名を行い、早ければ年内にも新政権が発足する見通し。また、これまで懸案となっていたNATOへの年次国家計画(ANP)の提出につき、大統領評議会はANPに代わり「(国防)改革計画」(Program of Reforms of BH)をNATOに提出することで新たに合意した。

●BH議会下院、常任委員会の任命に関する下院議会規則を改定(20日)

BH議会下院は、セルビア民主党(SDS)および民主進歩党(PDP)(ともにセルビア系野党)が先に提出していた議会常任委員会の任命に関する下院規則の改定案を、これら2党にボシュニャク系与野党(SDA及び民主主義戦線(DF)など)を加えた賛成多数で可決。同改定により、特定政党の反対による委員会発足の停滞防止を目的として、一定の条件を満たせば議会下院の議長および副議長が委員の任命を行えるようになった。

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●サラエボとトゥズラの両カントン、移民・難民施設の新規開設を認めない方針(14日)

BHに流入した移民・難民の収容施設不足の解決に向け、ズビズディッチ閣僚評議会議長(首相)は、サラエボおよびトゥズラの両カン

トンにある旧軍用宿舎を一時的な収容施設にする方針を発表。これに対して両カントン政府は、移民・難民受け容れの負担が自治体間で不平等であると反発、新規の施設開設を認めない旨発表している。

イ. スルプスカ共和国(RS)

●DNS、SNSDとの連立維持を決定(1日)

パビッチ民主人民同盟(DNS、RS連立与党第二党)党首は、ドディックSNSD(同与党第一党)党首との会談後、記者団に対し、両党がRSレベルにおける連立を維持する方針で合意した旨発言。両党の関係をめぐっては、10月にパビッチDNS党首が、SNSD側に連立合意違反があったとしてSNSDとの連立関係を解消する方針を表明していた。

●RS国民議会、RSの権利などに関する20項目の決議を採択(11日)

RS国民議会は臨時会合を開催し、「デイトン和平合意に基づく国家構造に対する違憲的改変」と題した20項目の決議を、RS連立与党(SNSDおよびDNSなど)の賛成多数で採択。RS議会は、RSがその地位を独自に決定する権利を持っているなど同決議の中で主張。これに対して、和平履行評議会(PIC・SB)の各国大使(除ロシア)は、13日、同決議がデイトン合意の誤った解釈に基づくものだとし、非難する共同声明を発出した。

●ドディック大統領評議会メンバー、RS刑法改正の方針を発言(19日)

ドディック大統領評議会セルビア系メンバー(SNSD党首)は、今後、BH議会を含む中央政府機関においてRS選出議員などがRS国民議会の決定に反する行為をした場合に、こ

れを刑事罰の対象とするRS刑法の改正を実施する方針を発言。これに対してBH国内外からは、同改正が民主主義の原則に反するものであるとの懸念が出ている。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

● インツコ上級代表による第56回国連安保理報告(5日)

インツコ上級代表(OHR)は、 Dayton 和平合意の履行状況に関する第56回国連安保理報告を実施。同報告書において上級代表は、与党SDA(ボシュニャク系)とSNSD(セルビア系)の対立により新政権発足が大幅に遅れているとして両党を非難。また、OHRの閉鎖条件としてPIC・SBが2008年に策定した「5+2」に関しては、BHが「同アジェンダの達成から大きく後退している」として、OHRの早期閉鎖は困難との見方を示した。

● 西バルカン地域「ミニ・シェンゲン」構想に関する西バルカン5か国首脳会談(10日)

西バルカン地域におけるヒト・モノ・サービスの移動に対する障壁撤廃を目指す「ミニ・シェンゲン」構想につき、同構想を主導するセルビア、アルバニア、北マケドニアにBH及びモンテネグロを加えた5か国の首脳会談がオフリド(北マケドニア)で開催され、BHからズビズディッチ閣僚評議会議長(首相)が出席。会合後ズビズディッチ議長は、同構想に対するBH政府の立場は今後決定することになると述べた。

● EU加盟プロセスに対するBH国内の支持率は49%(世論調査)(27日)

当地EU代表部は、2018年から本年にか

けて西バルカン地域諸国で実施したEU加盟プロセスに関する世論調査の結果を発表。同調査結果によれば、EU加盟プロセスに対する各国国民の支持率は、西バルカン地域全体では平均58%に上った一方で、BH国内では49%であった。

(2) 二国間関係

● ヴィクトリア・スウェーデン皇太子夫妻のBH訪問(6～7日)

ヴィクトリア・スウェーデン皇太子夫妻およびロヴィーン同国副首相がBHを訪問。スウェーデン皇太子夫妻はBH大統領評議会との会談を行ったほか、ロヴィーン副首相とともにBH国会議事堂で開催された「気候変動時代におけるスマートな成長」と題した会合に出席した。なおスウェーデンは、自然環境保全分野において対BH最大の援助国である。

● BH要人、BHは「時限爆弾」であると発言したマクロン仏大統領を批判(8日)

コムシッチ大統領評議会議長(元首、クロアチア系)およびジャフェロビッチ同ボシュニャク系メンバーは、シリアからのISIL帰還兵問題を抱えるBHを「(EU加盟国の)クロアチアに隣接する時限爆弾」であると英エコノミスト紙上で発言したマクロン仏大統領を非難。一方でディック同セルビア系メンバーは、イスラム原理主義がBH国内で実際の脅威になっていると述べ、マクロン大統領を擁護した。

● コムシッチ大統領評議会議長、コーマック米 국무次官補筆頭代理らと会談(23日)

コムシッチ大統領評議会議長は米ワシントンを訪問し、コーマック同国 국무次官補筆頭代理およびパルマー国務省西バルカン担当

特使らと会談。米国側は、今月19日にBH大統領評議会が合意した「(国防)改革計画」のNATO側への早期提出に対する期待を述べるとともに、BHの欧州大西洋統合を引き続き支持する旨述べた。

●大統領評議会、アルバニアにおける地震へのお見舞い書簡を発出(26日)

コムシッチ大統領評議会議長、ジャフェロビッチ同メンバー、およびドディック同メンバーは、26日未明にアルバニアのドゥラス市近郊で発生した地震に対するお見舞い書簡を、同国のメタ大統領宛てにそれぞれ発出。同地震発生後には、BH国内でも余震の影響により一部自治体が小学校の休校措置をとるなど、影響が広がっている。

(3) 日・BH関係

●坂本大使とジャフェロビッチ大統領評議会メンバーの会談(7日)

坂本秀之駐BH日本国大使は、ジャフェロビッチ大統領評議会ポシュニャク系メンバーとの間で日・BH関係及びBH情勢などにつき会談を実施。ジャフェロビッチ・メンバーからは、BHのEU加盟プロセスに対する日本の支援への謝意が述べられた。



(写真:坂本大使ジャフェロビッチ・メンバー)

●パニャ・ルカ市診療所への救急車両の引渡し(20日)

2017年度草の根・人間の安全保障無償資金協力に基づくパニャ・ルカ市(RS)診療所への救急車両2台の引渡し式典が行われ、坂本秀之大使およびラドイチッチ同市市長らが出席した。



(写真:坂本大使とラドイチッチ市長ら)

●サラエボ大学獣医学部からの感謝状(21日)

サラエボ大学獣医学部創設70周年の記念式典において、フェイジッチ同学部長から在BH日本大使館に対して感謝状が授与された。2013年から日本語公開講座が同学部の教室で実施されるとともに、2015年には日本政府の草の根文化無償資金協力により微生物および化学実験教室が改修されるなど、当大使館と同学部は良好な協力関係を築いている。



(写真:感謝状の授与)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●トゥズラ火力発電所7号炉建設に向けた工事が開始(2日)

BH電力公社(Elektroprivreda BH)は、中国輸出入銀行の融資によるトゥズラ火力発電所7号炉の建設に向けた準備工事を開始した旨発表。同建設の総工事費用は15億KM(約7億6,700万ユーロ)。BH電力公社は7号炉につき、2023年をめどに運用停止を予定する同発電所3,4,5号炉に替わる主要炉として、2025年に運用を開始することを予定している。

●今年第3四半期までのBH貿易収支、前年同期から悪化(13日)

2019年第1～3四半期(1～9月)のBH貿易収支は、輸出額が前年同期比で1.7%減の89億5,000万KM(約45億7,600万ユーロ)に対し輸入額が同2.29%増の149億3,000万KM(約76億3,400万ユーロ)となり、輸出額から輸入額を引いた貿易収支は59億8,000万KM(約30億5,800万ユーロ)の赤字。細目では、対トルコ輸出が前年同期比で4,400万KM(2,250万ユーロ)の減少。背景には、BH・トルコ自由貿易協定のBH議会批准遅れがあると指摘されている。

●BH中銀、国内インフレ予測に関し新たな取組を開始(19日)

BH中央銀行は、BH国内の正確な物価変動予測、および政府による効率的な経済政策の立案・実行に向けた環境整備の一環として、国内インフレ率の予測に関する新たな調査プロジェクトを開始。今後、中銀は同プロジェクト

の第1段階として、年に2度のペースで、国内の各金融機関との協力のうえ短期・中期の国内インフレ率の予測調査を行う見通し。

(2) 民間セクター

●9月の訪BH観光客数は前年同月比8.5%のプラス(8日)

9月にBHを訪れた外国人観光客数は16万9,725人で、前年同月(2018年9月)比で8.5%のプラス。出身国の上位3か国はクロアチア(7.7%)、中国(6.4%)、セルビア(6.3%)であった。

●BH国内企業の94%は小規模企業(23日)

BH統計庁によれば、2018年にBH国内で活動していた27,371企業のうち、全体の94%にあたる25,846社は従業員50人未満の小規模企業であった。このほか、従業員50～249人の中規模企業は全体のおよそ5%にあたる1,265社であったほか、従業員250人以上の大規模企業は同約1%の260社であった。

●10月の国内工業生産高、前年同月比で10.4%のマイナス(30日)

10月のBHの国内工業生産高は、前年同月(2018年10月)比でマイナス10.4%。また今年1～10月までの通期では、前年同期(2018年1～10月)比でマイナス5.6%を記録。なお、今年に入ってから同数値は前年比マイナスの傾向が断続的に続いていたが、今回の下げ幅はこれまでで最大。